

諮問案及議案綴込

下条

十	一	三
類	冊	函

国立公文書館

分類

排架番号

2 A

36

293

諮問第一號

大正八年十月十日諮問

一 糧食ノ充實ニ関スル根本方策如何

全 第二號

同上

一 鹽ノ生産配給及價格等ニ関スル根本方策如何

全 第三號

十一月十日諮問

一 製鐵業ノ振興ニ関スル根本方策如何

全 第四號

同上

一 造船業ノ維持發達ニ関スル根本方策如何

全 第五號

一 税制整理ニ関スル根本方策

全 第六號

一 關稅率ノ一般改正ニ関スル根本方策如何

大正八年十月十日





諮問第

糧食ノ

米穀 人當 八約 移入 地面 ニ現 要ノ 此所 ヲサ 之カ シテ

臨時財政經濟調査會名簿

會長

五番 內閣總理大臣 原

芝公園七號ノ四 (電芝六八)

敬

副會長

一番 正四位勳一等 高

橋 是 (電芝五八六〇)

清

二十八番 從三位勳二等 山

本 達 (電芝九段七九)

雄

委員

二番 正五位勳三等 高

橋 光 (電芝新橋七二〇)

威

三番

申 田 萬 藏 (電芝別所一七)

藏

四番 從四位勳三等 小

山 健 三 (電芝二六三)

三

十八番

從三位勳二等 男 爵

田 健 治 郎 (電芝赤坂青山高樹二二〇七)

十九番

勳四等

鈴 木 梅 四 郎 (電芝四番三)

二十番

從四位勳三等

秦 豐 助 (電芝京橋地三三二二)

二十一番

正五位勳三等

井 上 準 之 助 (電芝麻布三河三三三)

二十二番

正五位勳四等

岡 崎 邦 輔 (電芝荏原大井鹿島谷)

二十三番

從五位勳四等

松 本 剛 吉 (電芝芝田川一)

二十四番

從五位勳四等

片 岡 直 輝 (電芝兵衛縣川邊郡長尾村)

二十五番

正四位勳三等 子 爵

前 田 利 定 (電芝豐多摩大久保、四大久保)

二十六番

從四位勳二等

神 野 勝 之 助 (電芝野崎士見六、一〇)

臨時委員	四十五番	工學博士	香村小祿
同	四十六番	工學博士	石丸重美
同	四十七番		堀 啓次郎
同	四十八番		白 仁 武
同	四十九番		淺 野 總一郎
同	五十番		岸 本 兼太郎
同	五十一番		小 田 捨次郎
同	五十二番		勝 田 銀次郎
同	五十三番	工學博士	今 岡 純一郎
同	五十四番	男爵工學博士	大河内正敏
同	五十五番	男 爵	近 藤 廉 平
同	五十六番		山 下 龜三郎

同 五十三番 工學博士 今岡純一郎  
 同 五十四番 男爵 工學博士 大河内正敏  
 同 五十五番 男爵 近藤廉平  
 同 五十六番 山下龜三郎

諮問第

糧食ノ

米穀 人當 移入 地面 ニ現 要ノ 此所 之カ ヲサ シテ

臨時財政經濟調查會官制 (大正八年七月八日付九日公布)

- 第一條 臨時財政經濟調查會ハ内閣總理大臣ノ監督ニ屬シ關係各大臣ノ諮詢ニ應ジテ財政及經濟ニ關スル重要ナル事項ヲ調査審議ス
- 第二條 調査會ハ會長一人、副會長二人及委員三十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス
- 第三條 會長ハ内閣總理大臣ヲ以テ之ニ充ツ
- 第四條 副會長、委員及臨時委員ハ内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
- 第五條 會長事故アルトキハ内閣總理大臣ノ指名スル副會長其ノ職務ヲ代理ス
- 第六條 内閣總理大臣ハ調査審議ノ爲必要アリト認ムルトキハ調査會ニ部ヲ置キ委員及臨時委員ヲ之ニ分屬セシムルコトヲ得
- 第七條 調査會ニ幹事ヲ置ク内閣總理大臣ノ奏請ニ依リ關係各廳高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ス
- 第八條 幹事ハ會長及副會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス
- 第九條 調査會ニ書記ヲ置ク内閣ニ於テ之ヲ命ス
- 第十條 書記ハ會長、副會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
 臨時國民經濟調查會官制ハ之ヲ廢止ス

臨時財政經濟調查會議事規則 (大正八年七月十八日決定)

- 第一條 會議ノ日時及場所ハ會長之ヲ定ム
- 第二條 會長ハ會議ノ議長ト爲リ議事ヲ整理ス
- 第三條 會長、副會長共ニ事故アルトキハ會長ニ於テ指名シタル委員臨時議長ヲ代理ス
- 第四條 會議ハ委員及臨時委員ヲ合セ其ノ三分ノ一以上出席スルニ非サレハ之ヲ開クコトヲ得ス
- 第五條 議長ハ豫メ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム
- 第六條 會議ハ之ヲ秘密トス
- 第七條 發言セムトスル者ハ議長ノ許可ヲ受クヘシ
- 第八條 發言ハ議長ニ於テ起立シテ之ヲ爲スヘシ
- 第九條 議事ノ整理上必要アルトキハ議長ハ發言ヲ止メ又ハ議事ヲ中止スルコトヲ得
- 第十條 會長意見ヲ陳述シ又ハ可否ノ數ニ加ハラムトスルトキハ議長ニ著クヘシ
- 第十一條 副會長ハ議事ヲ整理スル場合ノ外常ニ議長ニ列席ス
- 第十二條 關係各廳職員其ノ他會長ニ於テ適當ト認メタル者ハ會議ニ出席シ議案ノ説明ヲ爲シ又ハ意見ヲ陳述スルコトヲ得
- 第十三條 修正ノ動議ヲ提出セムトスル者ハ案ヲ具シ之ヲ議長ニ差出スヘシ但レ簡單ナルモノハ口頭ヲ以テ陳述スルコトヲ得
- 第十四條 動議ハ賛成者アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス
- 第十五條 議事ハ過半数ヲ以テ之ヲ決ス可ク否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル
- 第十六條 採決ハ起立ニ依ル但レ議決ニ依リ記名投票又ハ無記名投票ヲ用フルコトヲ得
- 第十七條 調査會ニ部ヲ置キタルトキハ部ニ屬スル委員及臨時委員ノ互選ヲ以テ部長ヲ置ク
- 第十八條 部長ハ審査ノ經過及結果ヲ會議ニ報告スヘシ
- 第十九條 部會ニハ本則ノ規定ヲ準用ス
- 第二十條 會長必要ト認ムルトキハ部ノ外委員及臨時委員ノ中ヨリ特別委員ヲ選定シ審査ヲ命スルコトヲ得
- 第二十一條 特別委員ハ共ノ互選ヲ以テ委員長ヲ置ク
- 第二十二條 特別委員長ハ審査ノ經過及結果ヲ會議ニ報告スヘシ
- 第二十三條 特別委員會ニハ本則ノ規定ヲ準用ス
- 第二十四條 議事録ハ幹事之ヲ作成スヘシ

臨時財政經濟調查會官制名簿

事務所  
 内閣總理大臣官邸

電新橋  
 五五五  
 六四三

臨時財政經濟調查會名簿

會長

五番 內閣總理大臣 原 敬

副會長

一 番 正四位勳一等 高 橋 是 清

二 番 正五位勳三等 山 本 達 雄

委員

二 番 正五位勳三等 高 橋 光 威

三 番 申 田 萬 藏

四 番 從四位勳三等 小 山 健 三

六 番 從四位勳四等 齋 藤 之 助

七 番 正四位勳二等 橋 本 圭 三 郎

八 番 從四位勳二等 濱 口 雄 幸

九 番 正四位勳四等 林 博 太 郎

十 番 從三位勳二等 犬 塚 勝 太 郎

十一 番 梶 原 仲 治

十二 番 山 岡 順 太 郎

十三 番 從五位勳三等 園 塚 琢 磨

十四 番 從四位勳三等 山 崎 覺 次 郎

十五 番 正四位勳二等 古 賀 廉 造

十六 番 正五位勳三等 橫 田 千 之 助

十七 番 正六位 藤 山 雷 太

十八 番 從三位勳二等 田 健 治 郎

十九 番 勳四等 鈴 木 梅 四 郎

二十 番 從四位勳三等 秦 豐 助

二十一 番 正五位勳三等 井 上 準 之 助

二十二 番 正五位勳四等 岡 崎 邦 輔

二十三 番 從五位勳四等 松 本 剛 吉

二十四 番 從五位勳四等 片 岡 直 輝

二十五 番 正四位勳三等 前 田 利 定

二十六 番 從四位勳二等 神 野 勝 之 助

二十七 番 從三位勳二等 澁 澤 榮 一

幹事

農商務省商務局長 岡 本 英 太 郎

內務省地方局長 添 田 敬 一 郎

大藏省主稅局長 松 本 重 威

大藏省理財局長 森 俊 六 郎

內閣書記官 下 條 康 賢

正七位勳七等 浮 洲 福 雄

勳八等 村 田 太 郎

白 石 孝 徳

早 借 喜 太 郎

西 田 一 信

松 田 知 禮

長 谷 川 備 三 郎

菅 與 吉

書記

諮問第 糧食ノ

米穀

人當

八約

地面

二現

內閣總理大臣演示

大正八年七月十八日

姓名	職名	階級	備考
原敬	內閣總理大臣	正四位勳一等	芝公園七號ノ四 (電芝六八)
高橋是清	副會長	正四位勳一等	赤坂表三二〇 (電芝五八六〇)
山本達雄	副會長	正五位勳三等	麹町上二番三八 (電九段七九)
高橋光威	委員	正五位勳三等	麹町永田二二四 (電新橋七二〇)
申田萬藏	委員		芝町舟一七 (電芝一六三)
小山健三	委員	從四位勳三等	大阪市東區大手通二ノ三
齋藤之助	委員	從四位勳四等	麹町上二番二八 (電九段五七二)
橋本圭三郎	委員	正四位勳二等	豐多摩大久保西大久保三三三 (電番町一一〇)
濱口雄幸	委員	從四位勳二等	北豐島高田新町ヶ谷三三〇 (電番町八四九)
林博太郎	委員	正四位勳四等	豐多摩代々木ヶ谷三九九 (電番町三〇七)
犬塚勝太郎	委員	從三位勳二等	麹町富士見一一 (電番町一三二)
梶原仲治	委員		注原大崎下大崎八九 (電高橋三二八)
山岡順太郎	委員		大阪市西區西長堀南通四ノ九
園塚琢磨	委員	從五位勳三等	豐多摩千駄ヶ谷原宿三三四 (電芝二九〇一)
山崎覺次郎	委員	從四位勳三等	小石川原二二六 (電小石川五九九)
古賀廉造	委員	正四位勳二等	牛込余丁一〇八 (電番町二六四)
橫田千之助	委員	正五位勳三等	麻布市兵衛二二 (電芝九〇)
藤山雷太	委員	正六位	芝白金今里一四 (電高橋一五四五)
田健治郎	幹事	從三位勳二等	赤坂青山高樹二二ノ七 (電芝三〇)
鈴木梅四郎	幹事	勳四等	麹町四番三三 (電番町一〇三三)
秦豐助	幹事	從四位勳三等	京橋築地三二二 (電京橋三三四)
井上準之助	幹事	正五位勳三等	麻布三河街三一 (電芝三四四〇)
岡崎邦輔	幹事	正五位勳四等	注原大井鹿島谷
松本剛吉	幹事	從五位勳四等	芝字田川二一 (電芝五〇四)
片岡直輝	幹事	從五位勳四等	兵庫縣川邊郡長尾村
前田利定	幹事	正四位勳三等	豐多摩大久保西大久保南裏四三三 (電番町八八七)
神野勝之助	幹事	從四位勳二等	麹町富士見六六〇 (電番町一五〇二)
澁澤榮一	幹事	從三位勳二等	府下澁野川西ヶ原 (電小石川四六一)
岡本英太郎	幹事		農商務省商務局長 注原入新井新井宿一六一三 (電高橋一〇三二)
添田敬一郎	幹事		內務省地方局長 芝白金三光三〇一 (電芝三三三)
松本重威	幹事		大藏省主稅局長 豐多摩千駄ヶ谷三四六 (電芝二八九二)
森俊六郎	幹事		大藏省理財局長 注原入新井新井宿二二三八 (電大森三五四)
下條康賢	幹事		內閣書記官 麹町永田二二四 (電新橋二八九)
浮洲福雄	書記	正七位勳七等	
村田太郎	書記	勳八等	
白石孝徳	書記		
早借喜太郎	書記		
西田一信	書記		
松田知禮	書記		
長谷川備三郎	書記		
菅與吉	書記		

諸問第  
糧食ノ

米穀 人當 八約 移入 地面 現ニ 要ノ 此所 之カ ヲサ シテ

本 大 正 八 年 七 月 十 八 日 演 示 大 正 八 年 七 月 十 八 日 演 示 大 正 八 年 七 月 十 八 日 演 示

内閣總理大臣演示

(大正八年七月十八日)

六番	從四位勳三等	橋本圭三郎	豐多摩大久保西大久保 三五三(電番町一〇〇)
七番	從四位勳二等	濱口雄幸	北豐島高田新町ケ谷 原二〇(電番町八四九)
八番	正四位勳四等	林博太郎	豐多摩代々木ケ谷 九九(電番町三〇七)
九番	從三位勳二等	犬塚勝太郎	糠町富士見一 (電番町一三三)
十番	從五位勳三等	團琢磨	豐多摩千駄ヶ谷原宿三 四四(電芝二九〇一)
十一番	從四位勳三等	山岡順太郎	大原市西區西長堀南邊 四ノ九
十二番	法學博士	山崎覺次郎	小石川原二二六 (電小石川五九〇)
十三番	法學博士	古賀廉造	牛込余丁一〇八 (電番町二六四)
十四番	正五位勳三等	横田千之助	麻布市兵衛二二 (電芝九〇)
十五番	正六位	藤山雷太	芝白金全里一四 (電番町一五四五)

  

二十七番	從三位勳一等	澤榮一	府下瀧野川西ヶ原 (電小石川四六一)
農商務省商務局長	岡本英太郎	荏原入新井新井宿一六 一三(電番町一〇三三)	
內務省地方局長	添田敬一郎	芝白金三光三〇一 (電芝三三五三)	
大藏省主稅局長	松本重威	豐多摩千駄ヶ谷三四六 (電芝二八九二)	
大藏省理財局長	森俊六郎	荏原入新井新井宿二一 三八(電大森三五四)	
內閣書記官	下條康啓	麹町永田二一四 (電番町二八九)	
正七位勳七等	浮洲福雄		
勳八等	村田太郎		
勳七等功七級	早借喜太郎		
勳七等	西田一信		
	松田知禮		
	長谷川備三郎		
	菅與吉		

六番	男 郷 誠之助 （電九段五七三）	二十七番	男 從三位勳二等 澁澤 榮一 府下瀧野川西ヶ原 （電小石川四六〇）
七番	正四位勳二等 橋本 圭三郎 豐多摩大久保、西大久保、 三五三（電番町一一〇）	農商務省商務局長	岡 本 英 太 郎 府原入新井、新井宿一六 一三（電高輪一〇三二）
八番	從四位勳二等 濱口 雄 幸 北豐島、高田、新井ヶ谷、龜 原二〇（電番町八四九）	内務省地方局長	添 田 敬 一 郎 芝白倉三光、三〇一 （電芝三三五三）
九番	正四位勳四等 林 博 太 郎 豐多摩、代々木、新井ヶ谷、三 九九（電番町三〇〇七）	大藏省主稅局長	松 本 重 威
十番	從三位勳二等 犬塚 勝 太 郎		

諸問第  
糧食ノ

米穀 人當 八約 移入 地面 現 要ノ 此所 ヲサ 之カ シテ

内閣總理大臣演示

（大正八年七月十八日）

今回臨時財政經濟調査會ヲ設置シタルニ付本日諸君ヲ招集シ  
タリ  
本會ヲ設置シタル趣旨ノ概要ヲ披瀝シテ諸君ノ考慮ニ供スヘ  
シ  
財政ノコトニ關シ調査會ヲ設クヘントノ衆議院ノ建議アリ政  
府ニ於テモ大戰爭ノ後ヲ承ケタル今日ニ於テハ財政ヲ根本的  
ニ整理スルノ必要アリト信シ居タル際ナリシニ依リ喜シテ建  
議ヲ容レタリ然レトモ財政ヲ調査セントスレハ勢ヒ經濟ノ諸  
點ニ涉ラサルヲ得ス財政經濟ハ調査上離ル可カラサル關係ア

六番	男 正四位下 齋藤 麟之助 （電九段五七二）	二十七番	男 從三位勳一等 齋藤 深榮一 （電小石川四六〇）
七番	正四位勳三等 橋本 圭三郎 （豐多摩、大久保、西大久保、三五三） （電番町一〇一〇）	幹事	農商務省商務局長 岡本 英太郎 （在府、入新井、新井宿、一六一三） （電高輪、〇三三）
八番	從四位勳二等 濱口 雄幸 （北豐島、高田、新井、谷、龜原、二〇） （電番町八四九）	內務省地方局長	添田 敬一郎 （芝白金三光三〇一） （電芝、三三三）
九番	正四位勳四等 林 博太郎 （豐多摩、代々木、幡ヶ谷、三九九） （電番町三〇〇七）	大藏省主税局長	松本 重成

二  
リト信スルニヨリ政府ハ今回特ニ此財政經濟調査會ヲ設ケタ  
ル所以ナリ

如何ニ財政經濟ヲ調査ス可キヤト云フコトニ關シテハ其如何ナル方法ニ依ルヲ問ハス徹底的ニ調査ノ效果ヲ見ンコトヲ希望ス政府ノ見ル所ニ依レハ財政經濟ノ調査ニ自ラ二様ノ別アリ目下ニ處スル財政經濟ノ急ヲ要スル事項即チ臨機應急ノ處置ハ其一ニシテ他ハ國家永遠ニ互リ財政經濟ヲ調査シテ徹底的基礎ヲ定ムルニ在リ目下政府各部局ニ於テ財政上經濟上焦眉ノ急ニ應センカ爲メニ畫策スル所甚タ多シト雖トモ是等ハ固ヨリ國家永遠ノ目的ヲ定ムルモノトハ謂フヘカラサルニ依

諸問答  
糧食ノ

米穀  
人營  
ハ約  
移入  
地面  
ニ現  
要ノ  
此所  
ヲサ  
之カ  
シテ

リ諸君ヲ煩ハシテ調査セントスルハ多クハ國家永遠ニ互ル根本的調査ニ在リテ應急ノ處置ニアラス應急ノ處置ニ就テモ諸君ノ調査ヲ煩ハスヘキモノ之ナキニ非サルコト勿論ナリト雖トモ主タル目的ハ此ニアラスシテ彼ニ在リ  
講和既ニ成立シタリト雖トモ此講和ヨリ生スル財政經濟ノ問題ハ戰前ニ比シテ一層複雑ト爲リタリ殊ニ我國ニ於テハ此大戰爭ノ影響ヲ受ケ幸ニシテ國運ノ隆昌ヲ促シタルカ如キ觀アリト雖トモ社會ノ事物ハ之カ爲メニ著シキ變動ヲ受ケ財政上ニ於テモ經濟上ニ於テモ容易ナラサル時機ニ遭遇シタレハ諸君ノ努力ニ依リ此大勢ニ順應シテ國家永遠ノ大策ヲ確立セン

六番	男 正四位勳二等 林 誠之助 （電九段五七二）	二十七番	從三位勳二等 澤 榮一 （電小石川四六一）
七番	正四位勳二等 橋 本 圭三郎 （電九段五一〇）	農商務省商務局長	岡 本 英太郎 （電新井新井宿一六一）
八番	從四位勳二等 濱 口 雄 幸 （電北豐島高田新井宿一六一）	內務省地方局長	添 田 敬一郎 （電芝白金山三五三）
九番	正四位勳四等 林 博 太郎 （電豐多摩代々橋崎ヶ谷三九九）	大藏省主税局長	公 本 重 成

四

コトハ政府ノ切望シテ已マサル所ナルノミナラス蓋シ國民ノ之ヲ希望シテ已マサル所ナルヘシ

諮問手續ニ關シテハ必スシモ其問題ヲ局限セス政府カ見テ以テ必要ナリト信スル事柄ハ漸次諸君ニ提供シテ其審査ヲ煩ハスヘシ政府ハ國家ノ爲メニ諸君ノ充分ナル努力ヲ希望シ諸君ニ期待スル所甚タ多キハ諸君ニ於テ豫メ之ヲ諒セラレタシ

諮問  
糧食ノ

米穀  
人當  
ハ約  
移入  
地面  
ニ現  
要ノ  
此所  
ヲサ  
之カ  
シテ



向上ト共ニ漸次其ノ慣習ヲ失ハムトスルノ傾向アルヲ以テ之カ普及ヲ圖ルニハ相當ノ計畫ヲ要スヘシ而シテ最近ニ於ケル麥ノ生産額ハ約二千三百万石ニシテ其ノ内米ト直接混食スル大麥及裸麥ノ生産高ハ約千七百五十万石ヲ占メ之ニ對スル消費高ハ最近一ケ年約千九百万石ナルヲ以テ大麥及裸麥ノ生産ハ其ノ需用ニ對シ百五十万石内外ノ不足ヲ見ルノ理ナリ然シテ將來混食ノ慣習ヲ普及スルニ於テハ此等麥ノ消費ハ更ニ増加スヘキヲ以テ麥生産額ノ増加ヲ圖ルハ一層必要ナルコトニ屬ス何レニシテモ時ニ豊凶アリ又經濟界ノ狀況ニ依リテ其ノ消費ニ消長アルヲ免レス米ノ供給過剩ノ場合ニ於テハ之ヲ貯藏シ供給不足ノ場合ニ於テハ外國米ノ輸入ヲ行ヒ以テ需要供給ノ調節ヲ爲シ得ルカ如シト雖外國米ハ如何ナル場合ニ於テモ輸入シ得ルモノト認ムルコトヲ得サルノミナラス幸ニ輸入シ得ルトスルモ巨額ノ資金ヲ投セサルヲ得ス此等ノ事情ヲ考慮セハ常平倉ノ制度ヲ設クルノ必要アルヘシト雖其ノ常平倉ヲ設クルニハ如何ナル方法ニ依ルカ又之ニ貯フルハ粉ナルヲ得策トスルモ此初又如何ナル方法ニ依リテ集收シ得ルヤ要スルニ將來國民糧食ノ充實自給ヲ圖ルハ實ニ國家ノ重要事項ナルヲ以テ之カ根本方策ヲ定ムルノ緊要ナルヲ認メ茲ニ本案ヲ提出シ之ニ對スル意見ヲ求ム

## 諮問第二號

鹽ノ生産配給及價格等ニ關スル根本方策如何

### 說 明

戰前ニ於ケル鹽ノ需要額ハ通常一ヶ年約十一億斤ヲ上下シ之ニ對シ内地産鹽約十億、臺灣及關東州産鹽約一億五千萬斤ヲ以テ充當供給スルヲ例トシ來リタル處開戰以來世ノ好景氣ニ伴ヒ需要額頓ニ増加シ工業用鹽、漁業用鹽ハ元ヨリ漬物其ノ他ノ日常用鹽モ亦著シク増加シ十三四億斤以上ノ需要アルニ至レリ然ルニ大正四年以來大正七年度ニ至ル迄常ニ豐作ヲ見ス殊ニ七年度ニ在リテハ從前嘗テ見サル凶作ニ會シタルヲ以テ政府ニ於テハ臺灣、關東州、青島、威海衛、安南、西班牙、埃及、支那等ヨリ天日鹽ヲ移輸入シ有ラユル方法ヲ講シタルモ一方ニハ船舶不足シ鐵道輸送ノ滯滯スルアリ鹽ノ不足ト相俟テ終ニ充分ナル配給ヲ爲ス能ハサルニ至レリ現八年度ニ入りテハ幸ニシテ内地産鹽額モ平年額ニ達スルモノノ如ク一方外國鹽移輸入ノ準備調ヒ圓滑ニ移輸入シ得ルニ至リタルヲ以テ現況ニ在リテハ需給漸ク相當ルヲ得ル見込トナレルモ戰時ニ於テ膨脹セル需要額ハ休戰後毫モ減退スルトコロナク今日ノ見込ヲ以テセハ或ハ年十五億斤以上十七億斤ニモ達セムトス而テ實蹟上我内地産鹽額ハ漸ク十億五千萬斤ヲ前後スルヲ以テ約六七億斤ノ鹽ハ之ヲ移輸入ス

ルニ非レハ安全ニ供給ヲ準備スルコト能ハス將來ト雖此需要額ハ甚シク減退スルコトナカルヘク又工業用鹽(年一億五千萬斤乃至二億斤)ヲ除キ他ハ概ネ内地産鹽ヲ希望スルカ故ニ内地鹽ノ増製ヲ以テ之ニ應セムトスルモ今日ノ製鹽方法ヲ以テシテハ瀬戸内海沿岸ノ所謂十州地方以外ニ在リテハ概ネ良好ノ鹽田ヲ得ル見込無キカ故ニ内地産鹽ノ増加ハ十州地方ニノミ求ムヘク之レ亦經濟的ニ増加セシメムトセハ多大ノ望ヲ屬スルコト能ハサルヘシ又假リニ内地鹽ノ増製ニ依リテ需要ニ應スルコトトスルモ内地ノ生産費ハ多額ヲ要スルヲ以テ從テ之ニ相當スル賠償金ヲ支拂ハサルヲ得ス其ノ結果若シ之ニ伴ヒ賣渡價格ヲ定メンカ鹽價ノ騰貴免レス反之若シ鹽價ノ低廉ヲ期セムカ國庫ハ常ニ損失ヲ負擔セサルヲ得ス現ニ比較的良好ナル鹽田ノミ存スル今日ニ於テスラ政府ノ損失ハ年額約三四百萬圓ヲ算ス況ンヤ此上鹽田ヲ擴張スルニ於テハ生産費ハ更ニ増加スヘク從テ鹽價騰貴スルカ又ハ政府ノ損失加ハルカ何レカ其ノ一ヲ避ケ難シ然ラハ内地鹽ヲ拋棄シ不足額ノ全部ハ之ヲ前記移輸入鹽ニ依ルコトトセムカ何等カノ事故一度ヒ發生スルニ於テハ其ノ輸入困難トナリ圓滑ナル供給ヲ爲ス能ハサルノ虞アリ此ノ間ニ處シ將來鹽ノ供給ヲ圓滿ニシ且之ヲ廉價ナラシメ以テ國民生活ノ安定ヲ維持シ又工業ノ發達ニ資スルニ付根本方策ヲ定ムルノ緊要ナルヲ認メ茲ニ本案ヲ提出シ之ニ對スル意見ヲ求ム

### 諮問第三號

製鐵業ノ振興ニ關スル根本方策如何

#### 說 明

本邦ノ製鐵業ハ時局中鐵鋼材輸入ノ困難ト諸工業ノ股賑トニ基ク價格ノ昂騰竝政府ノ獎勵方策等ニ刺戟セラレテ急速ノ發達ヲ爲シ其ノ生産額戰前ニ倍加スルノ盛況ヲ呈シタリト雖休戰條約ノ締結ヲ見ルニ及ヒテヨリ鐵價ハ暴落ヲ告ケタルヲ以テ當業者ハ事業ノ前途ニ多大ノ不安ヲ感シ價格ノ管理輸入ノ制限關稅率ノ引上等政府ニ對シ種々ノ保護的施設ヲ要望スルニ至レリ

今我國ニ於ケル鐵鋼材ノ需給關係ヲ見ルニ大正七年ノ需要額ハ銑鐵(製鋼原料ヲ含ム)八十三萬二千噸鋼材百十七萬三千噸ニシテ之ニ對シ内地ノ生産額ハ銑鐵六十萬六千噸鋼材五十四萬噸ナリシヲ以テ其ノ不足額銑鐵二十二萬六千噸鋼材六十三萬三千噸ハ之ヲ輸入ニ求メタリ又原料鐵礦ノ需要額ハ九十九萬七千噸ニシテ之ニ對シ内地ノ産額ハ三十九萬八千噸ニ過キサリシヲ以テ其ノ不足額中二十三萬七千噸ハ朝鮮ヨリ移入シ爾餘ノ三十六萬二千噸ノ供給ハ之ヲ海外ニ仰キタリ鐵礦需要額カ右ノ如ク比較的少額ナルハ鐵鋼材ノ輸入多キ結果ニシテ若シ大正七年ニ於テ本邦所要ノ鐵鋼材ヲ全部自給スルモノトセハ同年ニ於ケル鐵礦需要額ハ約三百萬噸ノ巨額ニ上リシナル

造船業ソレ自身ニ付テ考察スルモ之ヲ本邦主要工業ノ一トシテ海外諸國ノ注文ニ應シ船舶ヲ外國ニ輸出シ本邦ヲシテ東洋ニ於ケル最大造船國タルノ地位ヲ保タシムルヲ以テ經濟政策ノ目的ト爲ササル可ラス

之ヲ要スルニ本邦造船業ノ維持發達ニ對スル方策ハ國家永遠ノ目的ヲ基礎トシテ之ヲ確立シ萬遺算ナカラムコトヲカメサル可ラス

然ラハ右方策ハ如何ニ之ヲ確立スヘキカ現行造船獎勵法ヲ存續スルコト亦其ノ一方法タルヘシ然レトモ一昨年該法ノ施行停止ヲ適當ナリトセシメタル事由ハ今日尙存在シツツアリ只程度ニ於テ著シク低下シタルノミ將來ニ於テモ國家ニ於テ特ニ必要ト認ムヘキ特殊船舶型ノ船舶乃チ所謂優秀船ノ建造ヲ獎勵スル場合ヲ除クノ外並異常事件ノ發生セサル限り此等ノ事由ハ當分ノ間依然存續スヘシト認メラルルカ故ニ今日ニ於テ定ムヘキ永久ニ至ル一般方策トシテ現行造船獎勵法ヲ復活伸長スルハ保護厚キニ失スルノ嫌ナキヤ然ルニ本邦造船業ハ之ヲ外國ニ比シ根本的ニ幾多不利ノ點ヲ有スルコト明カナルモノアリ就中造船材料並機裝品ハ主トシテ之ヲ外國ニ仰クノ結果之レニ對スル關稅及運賃等ヲ負擔セサル可ラサルコトハ本邦造船業ノ最モ不利トスル所ナリ此等ノ不利ヲ排除スルハ本邦造船業ヲシテ外國ノ競争ニ堪ヘシムル爲メニ緊要ニシテ造船獎勵法ハ實ニ此ノ主旨ニ基キテ制定セラレタルモノナリ然レトモ運賃保險料等ニ相當スルモノハ時々變動アリ

テ今日ノ獎勵金ハ只其ノ一部ニ過キササルノ狀況ヲ呈シ居リ且ツ本邦造船業ノ現狀ニ鑑ミ之ヲ補償セサルモ可ナリト認ムルモ關稅ハ一定ニシテ其ノ免除ハ實行シ易ク而シテ之レカ負擔ヲ免レシムルコトハ本邦造船業ヲシテ外國造船業トノ競争ニ堪ヘシムルカ爲メニ效果甚タ大ナルモノアルヘシ加之實際ニ於テハ此ノ關稅免除ノ問題ハ單ニ我海運業ニ使用スヘキ船舶ノ材料ニ對スル關稅免除ノ問題タリ何トナレハ現行制度ニ於テ獎勵金ヲ受ケサル船舶ニシテ外國ニ輸出スルモノノ材料ニ付テハ戻稅ノ特典ニ依リ關稅ヲ免レ得ヘク從テ造船獎勵法ヲ復活伸長セサル曉ニ於テ關稅免除ヲ實行セサルトキハ我海運業ニ使用スヘキ船舶ノミ獨リ關稅ヲ負擔スルコトトナリ甚不權衡ニシテ且ツ我邦ノ船主ヲシテ著シク不利ナル地位ニ立タシムルニ至ルヲ以テ關稅ヲ免除シ戻稅ノ制度ヲ廢シ彼此均等ナラシムルヲ適當トスルカ如シト雖若シ保護ノ方法トシテ造船獎勵法ニ代フルニ單ニ造船材料並機裝品ノ輸入稅免除ヲ以テスルトキハ國家ハ造船上ニ關シ何等ノ條件ヲモ附加シ能ハサルヲ以テ國防ノ要具トシテ軍事上ノ要求ヲ充足シ且ツ將來世界的海運競争場裡ニ出入シ得ヘキ優秀船ヲ得ルコト困難ナルノミナラス一面近時發達ノ緒ニ就キタル本邦製鐵業ニモ影響ヲ來スヘシ即チ本件關稅免除ハ本邦製鐵業ト密接ノ關係アリテ本邦製鐵業ニ對スル根本方策ノ確立ト共ニ之ヲ解決スルヲ適當トスヘシ

以上ハ本邦造船業ノ根本ニ關スル主要ナル問題ノ一ニ過キササルモ要スルニ造船業ノ維持發達ヲ圖

造船業ソレ自身ニ付テ考察スルモ之ヲ本邦主要工業ノ一トシテ海外諸國ノ注文ニ應シ船舶ヲ外國ニ輸出シ本邦ヲシテ東洋ニ於ケル最大造船國タルノ地位ヲ保タシムルヲ以テ經濟政策ノ目的ト爲ササル可ラス

之ヲ要スルニ本邦造船業ノ維持發達ニ對スル方策ハ國家永遠ノ目的ヲ基礎トシテ之ヲ確立シ萬遺算ナカラムコトヲカメサル可ラス

然ラハ右方策ハ如何ニ之ヲ確立スヘキカ現行造船獎勵法ヲ存續スルコト亦其ノ一方法タルヘシ然レトモ一昨年該法ノ施行停止ヲ適當ナリトセシメタル事由ハ今日尙存在シツツアリ只程度ニ於テ著シク低下シタルノミ將來ニ於テモ國家ニ於テ特ニ必要ト認ムヘキ特殊船種船型ノ船舶乃チ所謂優秀船ノ建造ヲ獎勵スル場合ヲ除クノ外竝異常事件ノ發生セサル限り此等ノ事由ハ當分ノ間依然存續スヘシト認メラルルカ故ニ今日ニ於テ定ムヘキ永久ニ至ル一般方策トシテ現行造船獎勵法ヲ復活伸長スルハ保護厚キニ失スルノ嫌ナキヤ然ルニ本邦造船業ハ之ヲ外國ニ比シ根本的ニ幾多不利ノ點ヲ有スルコト明カナルモノアリ就中造船材料並機裝品ハ主トシテ之ヲ外國ニ仰クノ結果之レニ對スル關稅及運賃等ヲ負擔セサル可ラサルコトハ本邦造船業ノ最モ不利トスル所ナリ此等ノ不利ヲ排除スルハ本邦造船業ヲシテ外國ノ競争ニ堪ヘシムル爲メニ緊要ニシテ造船獎勵法ハ實ニ此ノ主旨ニ基キテ制定セラレタルモノナリ然レトモ運賃保險料等ニ相當スルモノハ時々變動アリ

テ今日ノ獎勵金ハ只其ノ一部ニ過キサルノ狀況ヲ呈シ居リ且ツ本邦造船業ノ現狀ニ鑑ミ之ヲ補償セサルモ可ナリト認ムルモ關稅ハ一定ニシテ其ノ免除ハ實行シ易ク而シテ之レカ負擔ヲ免レシムルコトハ本邦造船業ヲシテ外國造船業トノ競争ニ堪ヘシムルカ爲メニ效果甚大ナルモノアルヘシ加之實際ニ於テハ此ノ關稅免除ノ問題ハ單ニ我海運業ニ使用スヘキ船舶ノ材料ニ對スル關稅免除ノ問題タリ何トナレハ現行制度ニ於テ獎勵金ヲ受ケサル船舶ニシテ外國ニ輸出スルモノノ材料ニ付テハ戻稅ノ特典ニ依リ關稅ヲ免レ得ヘク從テ造船獎勵法ヲ復活伸長セサル曉ニ於テ關稅免除ヲ實行セサルトキハ我海運業ニ使用スヘキ船舶ノミ獨リ關稅ヲ負擔スルコトナリ甚不權衡ニシテ且ツ我邦ノ船主ヲシテ著シク不利ナル地位ニ立タシムルニ至ルヲ以テ關稅ヲ免除シ戻稅ノ制度ヲ廢シ彼此均等ナラシムルヲ適當トスルカ如シト雖若シ保護ノ方法トシテ造船獎勵法ニ代フルニ單ニ造船材料並機裝品ノ輸入稅免除ヲ以テスルトキハ國家ハ造船上ニ關シ何等ノ條件ヲモ附加シ能ハサルヲ以テ國防ノ要具トシテ軍事上ノ要求ヲ充足シ且ツ將來世界的海運競争場裡ニ出入シ得ヘキ優秀船ヲ得ルコト困難ナルノミナラス一面近時發達ノ緒ニ就キタル本邦製鐵業ニモ影響ヲ來スヘシ即チ本件關稅免除ハ本邦製鐵業ト密接ノ關係アリテ本邦製鐵業ニ對スル根本方策ノ確立ト共ニ之ヲ解決スルヲ適當トスヘシ

以上ハ本邦造船業ノ根本ニ關スル主要ナル問題ノ一二過キサルモ要スルニ造船業ノ維持發達ヲ圖



ヲ整理スヘキカ蓋シ直接税ニ關シテハ所得稅ヲ以テ其ノ中心トスヘキコト前述ノ如シト雖其ノ他ノ直稅トノ脈絡又ハ配合ニ付テハ(一)所得稅ノ外尙地租及營業稅ハ之ヲ存置シ之ニ相當ノ改善ヲ加ヘテ負擔ノ權衡ヲ圖ルコト(二)地租及營業稅ハ之ヲ全廢シテ一般財產稅ヲ設ケ所得稅ト相並テ課稅ノ權衡ヲ相互ニ補完セシムルコト(三)地租及營業稅ハ之ヲ全廢シ土地家屋證券營業等各種ノ所得ニ對シ其ノ種類毎ニ特別所得稅ヲ課シ尙此外ニ此等ノ所得ヲ綜合シタル一般所得稅ヲ設クルコト等ハ研究ヲ要スル重要問題ナリト認ム次ニ間接稅ニ付テモ亦然リ酒稅ハ其ノ起源最モ古ク酒稅ニ次ギテ醬油稅、砂糖稅、麥酒稅、織物稅其ノ他各種ノ間接稅制定セラレ爾來財政ノ必要上時々増稅セラレタリ然シテ此等各稅ニ在リテモ其ノ課稅方法、負擔程度相互ノ關係等ニ於テ大ニ研究ヲ要スルモノアルハ言フ俟タサルノミナラス元來間接稅ハ必スシモ其ノ負擔者ノ資力ニ相應セス資產者タルト無資產者タルトヲ間ハス均等ニ負擔スルノ傾向ヲ有スルヲ以テ間接稅ハ特殊ノモノヲ除ク

昭和三年七月五日(本曜日) (第三編 稅務) 一一一

一〇八四	橋本白田川村	205	180	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
一〇八五	大津市	307	197	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
一〇八六	大津市	307	197	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
一〇八七	大津市	307	197	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
一〇八八	大津市	307	197	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
一〇八九	大津市	307	197	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
一〇九〇	大津市	307	197	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
一〇九一	大津市	307	197	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
一〇九二	大津市	307	197	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
一〇九三	大津市	307	197	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
一〇九四	大津市	307	197	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
一〇九五	大津市	307	197	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
一〇九六	大津市	307	197	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
一〇九七	大津市	307	197	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
一〇九八	大津市	307	197	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
一〇九九	大津市	307	197	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●
一一〇〇	大津市	307	197	●●●●●●●●●●	●●●●●●●●●●

關 俟

ノ外ハ成ルヘク之ヲ輕減シ或ハ之ヲ改廢スルノ要アルヘシ尙直間兩稅ヲ通シテ現行稅法トノ權衡上又ハ制度ノ缺陷ヲ補フ爲新稅ヲ制定スルノ必要ナキカ是レ亦併セテ研究スルノ必要アリト認ム

國稅ト相並テ研究ヲ要スルハ地方稅ニ關スル制度ナリトス蓋シ租稅負擔ノ點ヨリ觀察スレハ其ノ國稅タルト地方稅タルトヲ間ハス其ノ總額ニ就テ研究セサレハ事實上衡平ヲ保持スルコト能ハサルヘシ而シテ地方稅ハ各地共其ノ財政ノ膨脹ニ伴ヒ近年著シク増加シ來リタルノミナラス各地各樣ノ特別稅ヲ起スカ故ニ其ノ稅種モ亦頗ル複雜多端ヲ極メ實ニ百餘種ノ多數ニ上ルニ至レリ故ニ之ヲ齊整シテ成ルヘク其ノ稅種ヲ減少シ同時ニ國稅ト相俟テ負擔ノ權衡ヲ圖ルハ實ニ重要事項ナリト認ム

然レトモ亦翻テ之ヲ考フルニ社會ノ進步國家ノ發展ト共ニ經費ハ益々増加スヘキヲ以テ此ノ際租稅全體ヲ通シテ其ノ收入ノ減少ヲ企圖シ得ヘカラス否將來國家ノ

ルハ  
本案

進歩ト共ニ漸次増加スルコトヲ期セサルヘカラス故ニ少クモ現今ニ於テハ國稅タルト地方稅タルトヲ間ハス現在收入ヲ減セサル限度ニ於テ稅制ヲ根本的ニ整理シ其ノ組織脈絡ヲ完備ナラシムルト同時ニ國民負擔ノ權衡ヲ圖リ以テ財政經濟ノ基礎ヲ鞏固ニスルコト實ニ喫緊ノ要務ナリト認ム是レ本案ヲ提出シテ之ニ對スル意見ヲ求ムル所以ナリ

追テ關稅ハ外國貿易竝國際問題等ニ密接ノ關係ヲ有シ特殊ノ性質ヲ有スルヲ以テ別箇ニ諮問スルコトトスヘシ爲念付言ス

(終)

右ノ事業ハ土地收買ニ依リ土地ノ收用スルニテ其ノ利益ハ國庫ニ歸ス

山田 幸三	古川 平治	山本 貞一	水谷 金次郎	國本 武文	藤井 利雄
山田 幸三	古川 平治	山本 貞一	水谷 金次郎	國本 武文	藤井 利雄
山田 幸三	古川 平治	山本 貞一	水谷 金次郎	國本 武文	藤井 利雄
山田 幸三	古川 平治	山本 貞一	水谷 金次郎	國本 武文	藤井 利雄
山田 幸三	古川 平治	山本 貞一	水谷 金次郎	國本 武文	藤井 利雄
山田 幸三	古川 平治	山本 貞一	水谷 金次郎	國本 武文	藤井 利雄
山田 幸三	古川 平治	山本 貞一	水谷 金次郎	國本 武文	藤井 利雄
山田 幸三	古川 平治	山本 貞一	水谷 金次郎	國本 武文	藤井 利雄
山田 幸三	古川 平治	山本 貞一	水谷 金次郎	國本 武文	藤井 利雄
山田 幸三	古川 平治	山本 貞一	水谷 金次郎	國本 武文	藤井 利雄

諮問第六號

關稅率ノ一般改正ニ關スル根本方策如何

說明

關稅ハ國家財政上重要ナル財源ナルト同時ニ内地産業保護ノ手段ニ供セラルルコトハ固ヨリ論ヲ俟タス而シテ我關稅ハ舊條約時代ニ在リテハ單ニ收入ヲ圖ルヲ目的トシタルニ過キサリシカ明治三十二年實施ノ國定稅率ニ於テ始テ産業保護ノ意味ヲ加ヘ其ノ後明治三十九年及四十四年ノ兩度ノ一般改正ニ於テハ保護ノ色彩稍濃厚ヲ加ヘ以テ收入ヲ圖ルト同時ニ産業保護ノ目的ニ資スルコトトナレリ然レトモ現行稅率制定以來既二十年ノ歲月ヲ閱シ殊ニ歐洲戰爭以來物價竝内外産業ノ狀態一大變動ヲ來シタルヲ以テ現行稅率ハ相互ノ權衡上ヨリ見ルモ將亦産業保護ノ點ヨリ見ルモ時勢ニ適合セサルニ至リタリ從テ政府ハ夙ニ之カ改正ヲ爲スノ必要ヲ認メ居リタルモ戰後日向淺ク世界ノ經濟狀態亦變調ヲ呈セルノ時期ニ於テ一般的改正ヲ企ツルノ早計ナルヲ信シ唯緊急差措キ難キ數種ノ物品ニ付テノミ其ノ改正ヲ行ヒタリ然ルニ今ヤ列國ノ秩序漸ク回復シ一般經濟界モ亦漸次安定ヲ見ルニ至ラントスルヲ以テ此機會ニ於テ關稅率ノ一般改正ヲ企圖スルハ最も必要ニシテ且機宜ノ處置ナリト認ム

關稅率ノ一般改正ヲ爲スニ當リ最モ考慮ヲ要スト認ムル要點ヲ指摘スレハ凡ソ左ノ如シ

(一) 收入ノ目的ヲ以テ課稅ヲ爲スヲ適當トスル物品如何竝之ニ對スル課稅率ノ最高限度如何  
 財政上ノ收入ヲ圖ルコトカ關稅設定ノ主要ナル目的ナルコト前述ノ如シ然ルニ現行稅率ハ十餘年前ノ制定ニ係リ且ツ主トシテ從量稅率ニ依レル爲近時物價ノ昂騰ニ伴ヒ當然増加スヘキ收入モ之ヲ得ル能ハス頗ル屈伸力ヲ欠クノ憾アルヲ以テ相當改正ノ必要アルハ論ヲ俟タス然リト雖凡テノ物品ニ對シ收入ヲ本位トシテ關稅ヲ賦課スルハ一般消費者ヲ苦シムルノミナラズ却テ産業ノ發展ヲ阻止スルコトアルヘキヲ以テ收入主義ニ依リテ課稅スヘキ物品ノ選定竝其ノ賦課率ノ限度ニ關シテハ最モ考慮ヲ拂フヲ要スヘシ

(二) 産業保護ノ見地ヨリ課稅ヲ爲スヲ必要且適當トスル物品如何  
 關稅ハ收入ノ目的以外ニ又産業保護ヲ主要ナル目的トス現行關稅モ亦産業保護ノ意味ヲ加味シテ制定セラレ居ルコト既ニ述フルトコロノ如シ去レハ内外産業狀態一變セル今日ニ於テハ更ニ産業政策ノ見地ヨリシテ根本的ニ考慮ヲ加ヘ今後ノ經濟競爭ニ對應スヘキ適當ノ制度ヲ定ムルノ必要アリ然レトモ若シ其ノ方策ニシテ宜シキヲ失セムカ獨所期ノ目的ヲ達成シ得サルノミナラス却テ之ト關聯スル他ノ産業ノ發達ヲ阻害シ又ハ一般消費者ヲ苦シムルノ虞ナキヲ保セス故ニ保護關稅ヲ課スルヲ必要トシ且之ヲ適當トスル物品ニ付テハ慎重ナル考慮ヲ加フルヲ要スヘシ

(三) 課稅ノ權衡竝課稅上ノ便宜ヲ圖ル上ニ於テ其ノ稅目等ノ按配如何  
 現行制度ニ於テハ課稅上ノ簡便ヲ期スル爲メ多數ノ物品ニ付キ從量率ヲ定メタルカ現時ニ於テハ制定當時ニ比シ物價著シク變動セルヲ以テ此ノ間課稅上ノ不權衡ヲ來シタリ且稅目ノ分類煩ニ過キ課稅上ノ不便尠ナカラス故ニ課稅ノ權衡ト便宜トヲ考慮シ從價稅ト從量稅トノ按配及稅目ノ分類ヲ如何ニスヘキヤハ頗ル研究ヲ要スル問題ナルヘシ

(四) 將來外國トノ稅率協定ハ如何ナル方針ニ依ルヘキカ  
 條約ニ依ル關稅ノ協定ハ從來漸次其ノ種類ヲ減シ現ニ之ヲ存セルモノハ英、佛、伊ノ三國トノ間ノミナルカ此等諸國トノ通商條約モ既ニ改訂ノ機近ツキ居ルコトナレハ今後稅率ノ協定ニ付テハ如何ナル方針ニ出ツヘキカ是亦關稅ノ一般改正ヲ爲スニ付テ豫メ考慮シ置クヲ要スル點ナルヘシ

要スルニ關稅政策ハ財政上竝産業上其ノ影響スル所頗ル重大ナルモノアリ今ヤ現行關稅ニ對シ一般の改正ヲ加フルノ必要ニ際會シタルモノト認メラルルヲ以テ茲ニ本案ヲ提出シテ其ノ根本方策如何ヲ諮問スル所以ナリ